

平成 30 年度 年頭のご挨拶

大津市民病院は、地方独立行政法人“市立大津市民病院”として新生して 2 年目を迎えました。本年は、創立 119 年目の歴史のスタートです。より一層、地域の信頼に応えて、「最適で質の高い医療の提供」の実現に向けて、地域の皆様とともにさらなる飛躍を目指してまいります。

地域とともに歩む 119 年目のスタート

昨年、本院の歴史 118 年の歩みを記念して、明治～大正～昭和～平成までの歴史パネルを本館 1 階「ホスピタルストリート」に常設しました。写真と史実が織りなす歴史展示は過去からの学びと未来への羽ばたきに繋がると好評をいただいています。新たな取り組みとして患者さん向けの情報誌「つなぐ」を創刊しました。本院では従来から、「地域医療連携室だより」、「大津市民病院年報」、「大津市民病院雑誌」、「地域医療連携ガイドブック」、「市立大津市民病院パンフレット」を発刊してきました。今回の「つなぐ」は、本院の特徴、チーム医療現場、院内探訪とその雰囲気、職員の笑顔や真剣な眼差しと緊張感を織り交ぜた顔の見える身近な情報発信です。『市民とともにある健康・医療拠点』をあるべき姿として、総論から各論へ、“あなた”とともにある病院への道を具現

化してまいります。

医療界激流の中で病院が果たすべき社会的責任

この4月から新たな保健医療計画と診療報酬・介護報酬同時改定がスタートします。

わが国では今後さらに高齢化が進む中、①地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進、②新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実、③医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進、④効率的・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上が求められています。われわれ医療人には、“命を守る医療を守り抜く”社会的責任と強い志、そして先を見通す知恵が問われています。社会経済の変化にともない複雑化、多様化するニーズすべてに応えることは本当に難しいことですが、当院は一人でも多くの方に享受していただける双方向性の“納得の医療”を推進してまいります。

いざというときにこそ役に立てる病院

独法化2年目は、職員一同、地に足をつけて、すべての場面で『笑顔と元気で、今を克つ』ことを行動目標として、患者の皆さんの心を中心に置いた最適

な医療を提供します。今後ますます地域医療の機能分化が促進する中で、在宅医療・在宅療養を支援し、「いざというときにこそお役に立てる急性期医療の基幹病院」として、地域の皆様から選ばれる病院であるべく、地域の“かかりつけ医”の先生方との連携もさらに密接にして、地域医療支援病院として地域の医療全体の向上にも貢献してまいります。

最後に

患者さんのために何ができるのか、今年も市立大津市民病院は皆様とともに考え続けて歩んでまいります。これまでと変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 4 月 1 日

理事長 ・ 院長 片岡 慶正

本年度の職員全員の合言葉：『笑顔と元気で、今を克つ』

